

授業科目	スクールカウンセリング論					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	4	開講時期	後期
担当教員	水貝 淳子						
授業概要	スクールカウンセリング事業の概要について解説するとともに、児童期・思春期を対象としたカウンセリングの在り方について理解を深めていくことを目標としている。また、学校臨床における有効な支援のための多職種連携の在り方についても理解を深めていく。						
授業形態	対面授業			授業方法	ディスカッション グループワーク		

## 学生が達成すべき行動目標

標準的レベル	1. スクールカウンセリングの概要、課題について説明ができる。 2. 児童期・思春期を対象としたカウンセリングの留意点について理解し説明することができる。 3. 学校臨床における連携の在り方や重要性を理解し、説明することができる。
理想的レベル	1. スクールカウンセリングの概要、課題について適切に説明することができる。 2. 児童期・思春期を対象としたカウンセリングの留意点について理解し、自身の適切な援助の在り方について考えることができる。 3. 学校臨床における連携の在り方や重要性を理解し、連携上の留意点について考え、説明することができる。

## 評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	70%	
小テスト	0	
レポート	20%	
発表（口頭、プレゼンテーション）	0	
レポート外の提出物	0	
その他	10%	授業への参加姿勢

## カリキュラムマップ（該当DP）・ナンバリング

DP1	-	DP2	○	DP3	○	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	WE31417J
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	--------	----------

## 学習課題（予習・復習）

1回の目安時間（時間）

該当箇所の復習および授業で扱った内容についての調べ学習	4
-----------------------------	---

## 授業計画

第1回	テーマ：オリエンテーション 本授業のオリエンテーションを行う。また、スクールカウンセリング事業の概観について解説する。 また、小レポートの中で、受講学生の学校臨床における興味関心領域について問う。
第2回	テーマ：スクールカウンセリングに関する諸概念 スクールカウンセリング事業の概観を紹介し、スクールカウンセリングに関する諸概念について解説する。
第3回	テーマ：個別相談1 スクールカウンセリング事業のひとつである個別相談を取り上げ、児童生徒の心理アセスメントの視点について解説する。

	教育や福祉の現場で活用されやすいよう、心理アセスメントの視点として、認知的傾向を取り上げる。
第4回	テーマ：個別相談2 スクールカウンセリング事業のひとつである個別相談を取り上げ、児童生徒の心理アセスメントの視点について解説する。 教育や福祉の現場で活用されやすいよう、心理アセスメントの視点として、リソースへの着目やリソースの見つけ方を取り上げる。
第5回	テーマ：個別相談3 スクールカウンセリング事業のひとつである個別相談を取り上げ、児童期や思春期を対象としたカウンセリングについて解説する。解決志向療法を取り上げて、その概要や教育領域で用いる際の留意点について解説する。
第6回	テーマ：個別相談4 児童期を対象としたカウンセリングについて、教育領域において解決志向療法を用いた支援事例を提示し、その概要や保護者との連携の在り方、教育領域で用いる際の留意点等について検討する。適宜、ディスカッションやグループワークを行う。
第7回	テーマ：個別相談5 思春期を対象としたカウンセリングについて、教育領域において解決志向療法を用いた支援事例を提示し、その概要や保護者との連携の在り方、教育領域で用いる際の留意点等について検討する。適宜、ディスカッションやグループワークを行う。
第8回	テーマ：コンサルテーション 解決志向療法の考え方に基づいたコンサルテーションの進め方について解説する。また、教員と専門職、保護者が連携しながら支援を行った事例を提示し、コンサルテーションや連携の在り方について検討する。適宜、ディスカッションやグループワークを行う。
第9回	テーマ：心理教育プログラム1 スクールカウンセリング事業のひとつである心理教育プログラムを取り上げ、その目的や概要について解説する。 適宜、グループワークを実施する。
第10回	テーマ：心理教育プログラム2 引き続き、スクールカウンセリング事業のひとつである心理教育プログラムを取り上げる。心理劇やロールプレイングを用いた心理教育プログラムを実際に行い、その意義について参加者としての体験も踏まえながら検討する。ロールプレイングなどのグループワークやディスカッションを行う。
第11回	テーマ：心理教育プログラム3 引き続き、スクールカウンセリング事業のひとつである心理教育プログラムを取り上げる。臨床動作法を用いた心理教育プログラムを実際に行い、その意義について参加者としての体験も踏まえながら検討する。グループワークやディスカッションを行う。
第12回	テーマ：心理教育プログラム4 引き続き、スクールカウンセリング事業のひとつである心理教育プログラムを取り上げる。認知行動療法を用いた心理教育プログラムを実際に行い、その意義について参加者としての体験も踏まえながら検討する。グループワークやディスカッションを行う。

第13回	<p>テーマ：危機介入</p> <p>学校内外で児童生徒に生じる危機的事態に対する学校の対応やその留意点について心理学の視点から解説する。また、事例提示を行いながら、危機介入におけるスクールカウンセラーの果たす役割についても紹介する。</p>
第14回	<p>テーマ：多職種との連携</p> <p>児童虐待の事例を提示し、学校における児童虐待への対応について心理学的視点から理解を深めるとともに、学校内外での多職種と連携のあり方や重要性について学習する。</p>
第15回	<p>テーマ：まとめ</p> <p>これまでの授業内容の振り返りを行う。スクールカウンセリングの現状や課題について整理する。</p>
テキスト	授業中に適宜レジュメ等を配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>「明解！スクールカウンセリング」黒沢幸子・森俊夫・元永拓郎（著），金子書房。</p> <p>「指導援助に役立つ スクールカウンセリング ワークブック」黒沢幸子（著），金子書房。</p> <p>「学校で活かす いじめへの解決志向プログラム一個と集団の力を引き出す実践方法」スー・ヤング（著）黒沢幸子（監訳），金子書房。</p>
課題に対するフィードバックの方法	レポートを通じて出された授業内容に関する質問や感想については、適宜授業内で取り上げ回答する。
学生へのメッセージ・コメント	積極的に授業に参加し、学んだ内容を自身の実践に結び付けて考える姿勢が求められる。

